

集合的トラウマとしての 戦争体験を未来につなぐ ：平和を次世代に伝える実践から考える

2026 2/21 (土) 10:00~13:00

立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム + Zoom

Program

10:00 ~	開式挨拶・所長挨拶
10:10 ~11:15	趣旨説明・話題提供 報告者： 林田光弘さん (一般社団法人「ピース・エデュケーション・ラボ・ナガサキ」代表理事) 田中仁さん (京都歴史教育者協議会・戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会) 奥西栄介さん (神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授 研究テーマ：平和と人権、福祉の連関について考える、フィールド教育プログラムの開発)
11:45 ~12:15	ディスカッション、質疑応答 (進行：立命館大学産業社会学部教授 石田賀奈子)
12:15 ~12:25	まとめ

ポスターセッション

10:30
~ 12:00



衣笠キャンパス
創思館3階ラウンジ

主旨

2024年、日本被団協はノーベル平和賞を受賞した。被爆の実相を伝えてきた活動が評価されてのことであったが、こうした活動から次代を担うこどもたちが直接学びを得る機会は消滅寸前である。2025年は、第二次世界大戦の終戦から80年の年であった。自らの体験としてこの大戦の経験を語りうる当事者は年々減少しており、たとえば被爆者の平均年齢はすでに85歳を超えている。

社会福祉の領域においても、戦争による個人、家族、コミュニティへの影響を理解することは援助の展開に必要なものである。日常のソーシャルワーク実践において、多世代にわたって戦争体験の影響を見立てる必要に迫られる場面は少なくない。今回は、戦争体験の継承に取り組む方たちをお招きして、その活動についてうかがう。登壇者の実践に関する語りを通して、「文化的トラウマ」と「今の日常」を結び、対人援助の未来を考える機会としたい。

お申込みはこちら

